

宮城学院女子大学
Partir
[パルティール]



あなたのこれからに贈りたい
Live Letter from MG



- 15 MGにこの人あり
- 14 CAMPUS NEWS
- 13 サークル紹介
- 11 卒業生の仕事場訪問
- 09 My way MG way
- 07 ACTION 躍動するMG生!
- 05 特集 第5回宮城学院クリスマスマーケット
- 01 誌上セミ 日本語の豊かなバリエーションを認め
広い視野で発信する力を身につける
学問へのいざない

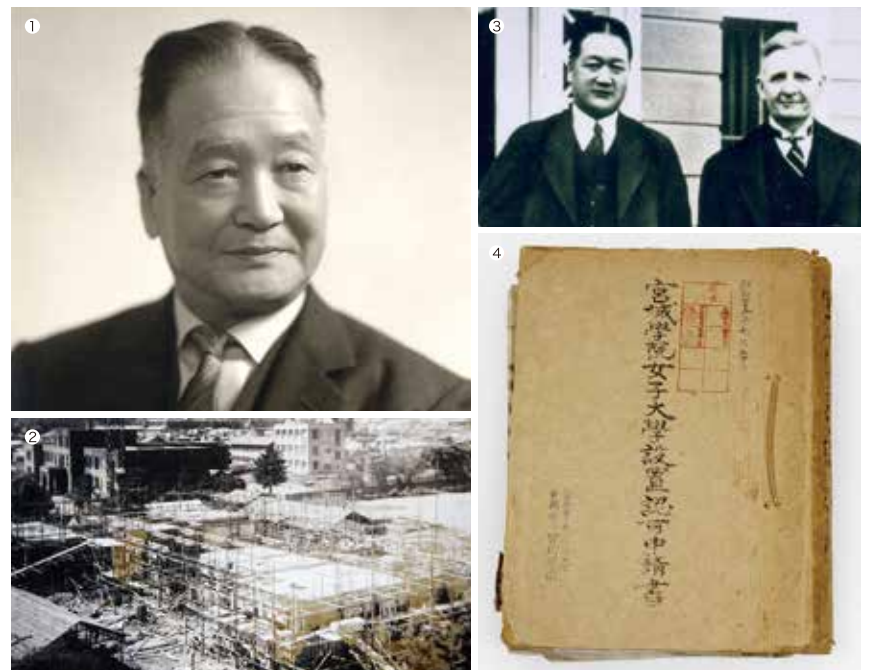
「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。



にしやま みさお
西山 貞

夫人のバスと共にアメリカへ帰国した宮城女学校第7代校長カール・D・クリーテに代わり、1941(昭和16)年11月、第8代校長に就任。それ以前は、和歌山高等商業学校(現在の和歌山大学)の教授を務めていました。

その後は戦争の影響もあって、これまでのように外国からの援助が期待できなくなるなど、苦難の時代が続きます。さらに追い打ちをかけるように、1945(昭和20)年7月の仙台空襲で、第二校舎と大講堂を除く校舎7棟が焼失。それでも彼の広い人脈で、校舎の復旧は着々と進んだほか、学制改革による新制中学・高校の発足、さらに1949(昭和24)年の宮城学院女子大学開設にも尽力。戦前、戦中、戦後の長い期間「中興の祖」として活躍しました。



①初の日本人校長となった西山 ②戦後、再建される校舎 ③若き日の西山とクリーテ
④現存する大学の設置認可申請書

MG archives

焼け跡のバラック校舎を経て やがて復興のモデルに

仙台空襲で校舎の多くが焼失するなど、大きなダメージを負った宮城学院。やがて焼け跡には、仮設のバラック校舎が次々と建てられていきました。まるで馬小屋のような外観のバラック校舎には廊下がなく、扉を開けるとすぐに外。冬の間、生徒たちはオーバーを着たまま授業を受けていました。その後は、西山の尽力もあり、第一校舎や寄宿舎など、さまざまな建物が建てられます。復興のモデルにもなった宮城学院には、全国各地から使節団が見学にやってきました。

日本語の豊かなバリエーションを認め 広い視野で発信する力を身につける

コミュニケーションツールとしての言葉を使い自分を磨く

日本語の地域差、社会差 若者言葉などを調査・研究

志村 本学の日本文学科では、日本語の研究を大きく日本語学と日本語教育の2つに分けており、日本語学は広く日本語を研究する学問です。この



志村 文隆 教授

どの身体表現があり、言語を補完したり、時には言語メッセージを打ち消したり、コミュニケーションへの効果が大きい場合があります。なかでも、相づちに伴う非言語行動の機能、会話に与える影響などを解明したいと思います。

飯田 私のテーマは、大学生の敬意意識です。「正しい敬語の使い方」を扱う本はたくさんあり、敬語は社会人のビジネススマナーに欠かせないものです。社会人の前段階の大学生はどのような敬語を使い、敬語に対してどう思っているか。私自身、アルバイ



佐藤 美里さん

トや就職活動をするなかで敬語の使い方が難しいと感じ、関心を持つようになりました。

酒井 私は若者が使う言葉をテーマに考えていましたが、授業を通して自分がよく使うツイッターに見られる若年層の言葉の独特な表現に着目しました。最近では、電話することを「もしもし」と言ったり、文の最後に記号をつけたりする例を多く見ます。そこで、若者がツイッターで使う言葉や表現の特徴を調べています。

志村 佐藤さんは日本語の地域差を扱う方言学の研究で、横倉さんは言語行動と非言語行動の両方を比較する研究です。そして飯田さん、酒井さんは大学生が使う言葉に着目していますね。皆さん自身が何気なく使っている言葉を観察すると、多様な言葉があふれています。言葉は年齢差や集団差が大きく、これは言葉の社

「日本語学発展演習」では、日本語の地域差、社会差の調査や観察を行っています。日本語には国語の教科書には出てこないような多様な言葉の世界が広がっています。現実の日本語が、どのように使われているかを調べる授業です。ここに集まった皆さんは3年生も終盤で、一年間の授業を通して自分の研究テーマを見つけたところです。それぞれが取り組んでいるテーマについて教えてください。

佐藤 私は仙台市の若年層における言葉のアクセントを調査しています。2年生のグループ活動で宮城県の方

言アクセント調査を行い、3年生以降も続けたいと思いました。現在、仙台市のアクセントは若い人たちを中心に従来とは変化していると感じたので、実際に本学の仙台市出身の学生を対象に調査を行い、現状を明らかにしたいと考えています。

横倉 私は、「相づち」における非言語行動の機能をテーマにしました。私たちは日常会話でコミュニケーションをとるときに、言葉を話すという言語行動だけでなく、非言語行動という手段も使用します。非言語行動には、顔の表情や視線、うなずきな



横倉 実可子さん

会差を扱う社会言語学という領域です。日本語には、豊かな言葉のバリエーションがあります。

フィールドワークで知った 生きた言葉の魅力

志村 日本文学科の学生は一見おとなしい印象がありますが、生きた言葉をキャッチするために、フィールドに飛び出していく行動派と私は見えます(笑)。2年生の「日本語演習」の授業で宮城県色麻町に方言アクセントの調査に出かけましたが、どんな体験でしたか。

学芸学部 日本文学科

志村 文隆 教授

[学芸学部 日本文学科3年 「日本語学発展演習」の皆さん]

佐藤 美里さん 横倉 実可子さん 飯田 夏美さん 酒井 柚奈さん



佐藤 演習を通して宮城県の方言アクセントが県の北部と南部で違うことを知り、宮城県のアクセントに興味を持ちました。フィールドワークに出かける前の授業で、調査する上の言葉使いなどの注意点を学びましたが、実際の調査では、相手に普段通りの話し方をしてもらうことの大変さを感じました。また、調査対象が60歳以上の方だったので、失礼がないよう言葉遣いに気をつけて、リラックスして話していただけるように質問の仕方や聞き方を工夫しました。初めてのフィールドワークで、上手に調査ができるか緊張しましたが、調査に協力いただいた方が働く食堂で食事をしたり、そこで出会った地元の小学生の体験学習に混ざって特産品の製造作業を見学したりしました。実際に足を運んで、紙のデータだけではわからない地域の雰囲気

言葉の多様性を認める 適切な確な使い手として

志村 日本語は身の周りの何気ない場所や瞬間にあり、興味を持つ材料との出会いはあちこちにあります。皆さんは、そこから一歩進んで、人が気に留めないような、言葉の背後にある言葉の変化を考える習慣を持つたことになりました。現代の日本語や話し言葉を研究して、言葉への意識の変化、あるいは日常の言語生活で役に立っていると感じることはありませんか。



酒井 柚奈さん

や地元の人の人柄などを知ることが出来て楽しかったです。

日本語学の知識を得て 悩みから開放された経験も

志村 日本語学のゼミを選んだ皆さんが、日本語学に興味を持った、日本文学科を志したきっかけは何ですか。
酒井 高校3年生の時、自分で好きなテーマを設定して文献を探し、レポートを書く授業がありました。その時に現在問題視されている日本語の誤用について、それは本当に日本語の乱れといえるのか、と問いか



飯田 夏美さん

る文献を読みました。今まで考えたことになかった切り口に、日本語の面白さに気づきました。そのレポートを書いたことがきっかけとなり、大学でも日本語学の授業を積極的に受け、改めて日本語の面白さに触れさらに深く学びたいと思いゼミを志望しました。

横倉 最初に日本語学に興味を持ったのは、高校生の頃です。私の出身地である福島県の会津が舞台となった大河ドラマ「八重の桜」で、若い人が普段使わない会津の方言が使われている、地元の方言を意識するようになり、その後、大学の友達に引越してから、大学の友達とうまく会話のキャッチボールができない、説明が足りずにコミュニケーションがうまくとれないと感じるようになり、改めて自分の言葉に目を向けると、私が「バーン

飯田 言葉を研究して、自分の言葉遣いに気をつけるようになり、その場に合った言葉遣いができるようになると感じています。また、実際に言葉を使う人を調査して、話す力、聞く力もついたらと思います。

横倉 日本語の知識があると、言語行動、非言語行動に注意深くなり、コミュニケーションをとるのが楽しくなります。また方言の話題で会話が弾んだり、コミュニケーションが円滑になったりすることもあります。言葉遣いに気をつけると、話すこと、書くこと、文章をつくることにも注意を払うようになりました。

酒井 以前より日本語に敏感になりました。自分や他人が普段使う日本語についてよく考えるようになったと思います。それが将来役に立つかは難しいところですが、人によって使う言葉が違うことは単純に面白いと

と、どーんと、ワクワク、ドキドキ」といった「オノマトペ(擬音語、擬態語)」を多用してしまいい論理的な会話ができないのではと否定的に捉えるようになり、そんな悩みをもっていた時、大学1年次の「文学語学入門セミナー」という志村先生の授業で、オノマトペは日常生活でも効果的に使われ豊かな意味がある生き生きとした言葉だと知り、自分を肯定できるようになりました。それは語学で得た知識が私の心を楽にし、生きやす

くしてくれたような体験で、もっと語学の力を感じたい、学びたい!と、思い日本語ゼミを希望しました。

感じます。何気ない会話も全て日本語学につながっていて、誰でも日本語に興味をもつ瞬間があり、そこで一歩踏み込んで感じた疑問を調べると、さらに日本語に興味をもてるようになると思います。

志村 日本語は一生使うものです。今の話にあったような日本語に気づく力、多様性を気に留める習慣を身につけると、将来の職業に関係なく日本語の使い手として力を発揮できることが必ずあります。言葉は人間のコミュニケーションの最大の道具です。言葉で相手を助けたり、皆さんの発した言葉がいろいろな人の言葉や行動に影響を与えたりすることが必ずあるでしょう。皆さんは日本語の最先端を研究していますが、その実態の観察を続ける中で、生きている豊かな日本語の世界が広がっていることを実感しているのではないのでしょうか。来年度、





「人間の快適な暮らしを住環境から追求する視点」を学ぶ

生活科学部 生活文化デザイン学科 本間 義規 教授

生活する人の目線で、住環境性能を設計する。1年生の科目「住生活環境論」は、住まいの温湿度・空気質・光・音などの物理環境が、人々の健康・快適性にどのように影響するのかを学ぶ質問です。例えば「音環境」。騒がしい場所では会話がなかなか成立しませんが、特に乳幼児期の音環境づくりは、とても重要です。言葉が明瞭に聞こえない空間で過ごすことは、健全な発達に悪影響を及ぼす可能性があるからです。WHOや諸外国の小学校・保育施設では、室内騒音レベルと残響時間に関する設計ルールがありますが、日本ではあまり重要視されていません。

もうひとつは「温熱環境」。家の中の温度差・ヒートショックが、脳卒中や心筋梗塞の原因となることは広く知られるようになりました。イングリランド公衆衛生局では、寒さが直接的に健康に影響することを理由に、室温18℃以上とすべきだと明言しています。また家の中の寒さは、結露やそれに起因するカビ・ダニ、そしてアレルギーなどの健康被害にもつながります。このように住環境をデザインするということは、単に見た目の格好良さだけではなく、人々の健康やより豊かな暮らしの基礎になるのです。

住環境という視点を学びのきっかけにする

建築や都市は、地域の気候特性・材料や歴史・文化・芸術と密接に結びついて成立しているのです。とても文系的です。一方で、日本のような地震国では、災害に強い住まいやまちづくりは大事ですし、地球温暖化防止のための省エネルギー性能への配慮も欠かせません。

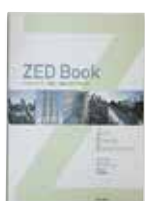


Profile 北海道日高町出身。北海道大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。1992年北海道立寒地住宅都市研究所(現・北海道立総合研究機構・建築研究本部・北方建築総合研究所)、2000年4月岩手県立大学盛岡短期大学部、2015年4月から現職。○信条「困難は分割せよ」

私のおすすめ本

ZED Book—ゼロエネルギー建築 縮減社会の処方箋—
著者：ビル・ダンスター、グレイ・シモン、ホビー・ギルバート、
訳者：高口洋人、中島裕輔(鹿島出版会)

OECD幸福度白書(OECD Better Life Initiative)の評価項目のひとつに「暮らしや環境」があります。どういう思想で「暮らしや環境」を選ぶのか。ZED(Zero Energy Development)の研究書としてはもちろん、ゼロエネルギーの必要性を考えるきっかけになる本です。



これが学びのツボ!

大学での学び方は、高校までとは異なります。授業も単に黒板を書き写すだけでなく、重要な口頭での説明もノートをとり、あとで振り返ることが求められます。大学での「学び方」を学んで、充実した4年間にしてほしいです。



「健康づくりを食と栄養で支える方法」を学ぶ

生活科学部 食品栄養学科 伊藤 佳代子 准教授

目標は地域で活躍できる 管理栄養士の養成

私が担当している「公衆栄養学」や「地域栄養活動論」は、地域全体の健康づくりを関係する法律とともに、栄養や食生活から考える学問です。地域の健康課題解決に向けて事業計画を作成していく過程を学びます。

食品栄養学科の学生は、様々な栄養の知識を身につけて3年生で臨地実習に臨みます。学校や高齢者施設・保健所や市町村・病院など3分野の現場を4週間経験して、自分の進む道を見つけます。この中で、保健所や市町村が公衆栄養学の実習先です。自分の育った地域で活躍する管理栄養士に出会い、興味を持ってもらえればと思います。そして4年間の集大成として、管理栄養士の資格取得も目標のひとつです。

とつです。

課題を発見し対策を考える 理論を実践に生かす面白さ

私は子どもの頃から料理や食べることが好きでしたが、栄養学に興味を持ったのは大学入学後でした。毎日の授業はどれも興味深く、実践することの重要性を学びました。管理栄養士の資格を取得し、病院や保健所に勤務しました。地域の健康づくりのためには、傾向や特徴を調査し、対策を事業として



提案します。自分が行ったことが具体的に結果として見えるので面白く、結婚・出産後も続けることができましたのだと思います。糖尿病患者や在宅療養者の食支援システムの構築、災害時の保健所管理栄養士の食支援体制の整備など、研究事業にも取り組みました。

栄養学は、どんな職業でも、どこにいても生かせる学問です。食は身体をつくるもので、毎日の積み重ねが大事です。理論だけでなく、調理や食材、調味割合のことなど、いろいろな幅広い知識を頭の中で組み立て、実践することが大切です。これからの人生を生きていく中で、自分ができること、自分を活かせることを探して、主体的に考えられる人になって欲しいと思います。

Profile 山形県白鷹町出身。女子栄養大学栄養学部栄養学科卒業。山形県に入庁。管理栄養士として、県立中央病院や県庁健康福祉部保健業務課、村山保健所地域健康福祉課等での勤務を経て、2016年4月から現職。○信条「毎日の食事から健康を」

私のおすすめ本

時間栄養学—時計遺伝子と食事のリズム—
香川靖雄・柴田重信・小田裕昭・加藤秀夫・堀江修一著
(女子栄養大学出版部)

公衆栄養学で動いている「健康長寿」や、体内時計や遺伝子のこと、食べる順番など、今注目されている「時間栄養学」をさまざまな視点から解説。日本栄養・食糧学会のシンポジウムの内容をわかりやすくまとめた、栄養学を学ぶ学生に読んでほしい1冊。



これが学びのツボ!

公衆栄養学は様々な栄養学はもちろん、調理学、身体の仕組み、病気や薬の知識、社会や環境のことなど、幅広い知識と正確な情報が必要です。常に向上心を持って勉強し自分の武器にして欲しいですね。



音楽

ハンドベルクワイアや聖歌隊の演奏、楽友コンサートなど、今年も盛りだくさん!中でも音楽科教員・学生による「動物の謝肉祭コンサート」は立ち見も出るほどの大盛況でした!



第5回 宮城学院



クリスマスマーケット

昨年12月に開催された宮城学院クリスマスマーケット。第5回を迎えた今回は、新たな音楽プログラムも開催されるなど、非常に華やかなものになりました。来場者数も前年を上回り、大人から子どもまでたくさんの人々で賑わいました。



ワークショップ

パイプオルガンの演奏にあわせて讃美歌を歌ったり、オリジナルのキャンドルを作ったり、クリスマスシーズンらしいさまざまな催しが、キャンパス内各所で実施されました。



礼拝・展示

開会礼拝ではクラリネット四重奏による賛美が、閉会式ではキャンドルサービスが、それぞれ行われました。ステンドグラス作家のガブリエル・ロワール展も大好評でした。



マーケット

当日限定の商品などを求めて、オープン直後から大盛況だったマルシェ。今年も多くのお客様がボランティアスタッフとして、たくさんのお客様をおもてなしました。



キッズ

クッキーにお絵かきをしたり、いろいろな楽器を弾いたり、スタンプラリーを回ったり、子どもたちは広大なキャンパスを、思う存分楽しめました。



ハンドメイドバザール

宮城学院中高では、ハンドメイドバザールを開催!たくさんのお客様がやってきました。このほかにも、ハンドベルや吹奏楽の演奏も行われました。



フード

限定メニューを味わえるクリスマスランチ売り場には、長蛇の列ができていたほか、ホットドリンクやシュトーレンが味わえるフードマルシェも大人気でした!



宮城学院女子大学聖歌隊 仙台放送「プライムニュース」に出演！

2017年9月に発足した宮城学院女子大学聖歌隊。昨年10月には、第一回定期演奏会を行うなど、音楽科・船橋洋介准教授の指導の下、ますます活躍の場を広げています。そんな聖歌隊が、昨年12月21日(金)放送の仙台放送「プライムニュース」に出演しました。取り上げられたのは、県内の頑張る人・挑戦する人を、生中継で紹介する「みんなの学び舎」のコーナー。礼拝堂内で美しい歌声を披露したほか、指導する船橋准教授やメンバーたちが、日頃の活動内容や今後の目標などについて話しました。



躍動するMG生!

学内はもちろん、
さまざまな舞台上で活躍する
MGUの学生たち。
ここでは、そんな彼女たちの様子を
紹介します。

Action

学外のコンテストで入賞した学生が 学長へ結果を報告!

昨年12月、学外のコンテストで入賞した現代ビジネス学部の学生が、平川新学長へ結果報告を行いました。報告を行ったのは、石原慎士教授と宮原育子教授の両ゼミ生、現代ビジネス学部の一年生。石原ゼミ生は、復興庁主催「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2018で「JR東日本賞」を受賞(応募総数149件のうち16件)。「石巻の郷土菓子を活用した産業復興ソリューションの開発」をテーマに、お茶菓子の商品開発を行いました。宮原ゼミ生は、JTBなどが主催の大学生観光まちづくりコンテスト2018(茨城ステージ)で「観光まちづくり」をテーマにプレゼンし、応募総数100チーム中第2位に相当する優秀賞を受賞。一年生は、自作のポスターでプレゼンを行うポスターセッション 優秀賞を受賞しました。報告を受けた平川学長は「現状に満足せず、さらに高みを目指してほしい」とエールを送りました。



音楽の殿堂・カーネギーホールで本学の学生がピアノを演奏!

アレキサンダー&ブオーノ財団(アメリカ)との教育提携プロジェクト「カーネギーホール派遣プロジェクト」が、いよいよスタート!これはニューヨークにある音楽の殿堂・カーネギーホール内のヴェイル・リサイタルホールで、音楽科の学生が演奏するというもの。演奏するのは、菅野梨々子さん(写真右)と庄子三未さん(共に音楽科2年ピアノ専攻)。菅野さんは「ワクワク感とドキドキ感が入り混じっています。周囲への感謝の気持ちを忘れず、観客の方々に楽しんでもらえるような演奏をしたいです」庄子さんは「国内のホールとは雰囲気全然違います」と語っています。2人が演奏するコンサートは、4月1日(現地時間)に開催されます。



カワイ仙台
横浜 理保さん

——「カワイ仙台」に就職を希望した理由は？

音楽科で学ぶ中で、漠然と音楽に関わる仕事がしたいと考えていました。学内で開催されるコンサートのスタッフを経験し、演奏者を陰で支える人たちの力がなければコンサートは成り立たないことを実感。それ以来、演奏者の役に立つ仕事に就きたいと思うようになりました。

——入社当時の仕事はどうでしたか？

入社して4年間は楽譜の販売や発注、問い合わせ対応、楽譜売り場のコーナづくり、POP作成などを担当しました。お客様との会話の中で要望を汲み取り、ご提案をしてお礼を言われるとやりがいを感じました。ただ、お客様の層が幅広く音楽のジャンルも多種多様のため、要望も多岐にわたり毎日が勉強でした。

——現在の仕事内容を教えてください。

カワイ仙台4階にあるコンサートサ



横浜さんが製作したプログラム。2018年はオープニング記念として毎週末のコンサートを企画。演奏者には宮城学院の同窓生も

カワイ最高峰のグランドピアノ「Shigeru Kawai」を備え、最大100名収容可能なコンサートホール「Verde(ヴェルデ)」について説明する横浜さん

一般企業に就職が内定した田中さんに「音楽に関わりたい気持ちがあれば、どんな形でも関わることができるので、その気持ちを大切にしてほしい」とアドバイス

コンサートの企画・運営を担当しています。出演者との調整、イベントのチラシやプログラムの作成が主な仕事です。またホームページやSNSでの宣伝・広報活動も大切です。イベント当日はロビーでお客様を迎えたり、演奏者をコンサートに送り出したりとステージマネージャーのような役割をします。

——仕事をしていて、良かったと感じるのはどんな時ですか？

東北の音楽の発信地として、皆さんに感動を与えるイベントを企画していきたいです。また、5月に開催される仙台国際音楽コンクールに向けて、海外の演奏者とのつながりが増えるので、英語を勉強しています。音楽に関わる人の役に立てるよう、日々いろいろなことに興味をもって努力していきたいと思っています。

——これからの目標は？

——学生時代に学んだことは仕事にどのように活かされていますか？

ピアノを演奏する場合、楽器の位置や角度、照明の当たり方ひとつでも演奏に影響がでます。事前に演奏者と打ち合わせを行い、調律担当者に調整をお願いすることもあります。演奏者の気持ちに共感できるのは、学生時代の経験が今の仕事に活かしているからだと思っています。宮城学院の先生が、今も親身になってアドバイスをくださるのも、とてもありがたいです。

演奏者の気持ちに寄り添い
お客様を笑顔にする
コンサートをつくりたい



[取材]

田中 晶子
(音楽科4年 ピアノ専攻)

サークル紹介 01

少林寺拳法部

- 部員数：12名
- 活動日：毎週火・木・土曜日
- 活動場所：大学体育館ほか

「技術向上」はもちろん めざすのは「人としての成長」

ほとんどの部員が、大学入学後に競技を始める少林寺拳法部。技術の向上もさることながら、礼儀や態度、服装、言葉遣いなど、人間として成長することを意識しながら、普段の練習に励んでいます。そんな姿に憧れて、入部してくる新入生もいますね。少林寺拳法の一歩の魅力は、自分自身（精神力）を高められること。そして年齢を重ねても、長いスパンで競技を続けていけることも魅力のひとつです！

教え、教わることで生まれる お互いの信頼関係

年に数回ある大会の前には、同じレベルの部員同士で練習をしています。一方で、普段は先輩と後輩がペアを組み、練習しています。教えることで自らの技術も向上しますし、お互いの信頼関係も生まれます。さらに部全体にも信頼感が広がり、良いチームができあがります。それもあって部内の雰囲気は非常に良く、みんな姉妹のように仲がよいんです！今後は、中途半端な練習をせず、各自が掲げた目標を達成できるよう、精進していきたいですね。



先輩・後輩が
ペアになっての練習風景



めざすのは心身両面の成長



部長
七夕 瞳子さん
(教育学科 幼児教育専攻2年)

国際奉仕団体の学生支部が活動中！



現在学内では、国際的な奉仕団体の学生支部が活動しています。奉仕と支援を通じて、全世界の女性の地位向上のために活動する国際ソクタの学生組織「宮城学院女子大学グローバルデンズクラブ（2015年7月発足）」、会員数140万人以上を誇る世界最大の奉仕団体ライオンズ国際協会の学生組織「宮城学院女子大学さくらレオクラブ（2017年8月発足）」、子どもたちへの奉仕活動を行う国際キワニスの学生組織「サークルK宮城学院女子大学（2018年2月発足）」の3団体。いずれの団体も



親クラブと連携しながら、それぞれの特色を生かした活動に積極的に取り組んでいます。

内容充実！河北新報社との連携事業 「ミヤガク新聞モニター」

連携協定を締結する河北新報社との連携事業「ミヤガク新聞モニター」。今年で4年目を迎えるこの事業は、学生が自分宛てに届く新聞の中から、毎日記事1つをスクラップして、自分の考えや感想等を記入。1カ月分を1冊にまとめ、3カ月間継続します。その後、メンター役の河北新報の記者が、朱書きでコメントをするというもの。今回は47名が参加しました。

このほか、参加者同士での新聞の回し読み、通常の新聞社見学では立ち入れない場所への見学、伊達武将隊のラジオ番組への出演、就職活動等に



も生かせる文章の書き方講座などを体験しました。



サークル紹介 02

競技ダンス部

- 部員数：17名
- 活動日：毎週火・木・土曜日
- 活動場所：学外（東北大学）

周囲に“魅せること” 周囲から“見られていること”を意識

東北大学と合同で活動している競技ダンス部。部員のほとんどが、未経験から競技をスタートします。男女でペアを組み、周りに対して“魅せること”そして“見られていること”を意識しながら、日々の練習を行っています。ペアを組むパートナーとは、互いの意見がぶつかり合うこともあるのですが、それを乗り越えて納得のいく演技ができた時の「充実感」や「達成感」を得られるところが、競技ダンスの一番の魅力です！

まるで大家族のような “親”や“きょうだい”の存在

部内では1学年上の先輩を「きょうだい」、2学年上の先輩を「親」と、それぞれ呼んでいて、まるで“大家族”のような存在。下級生は、上級生にアドバイスをもらいながら、技術の向上をめざしています。大会で踊っている際にも、仲間たちの声援が大きなモチベーションになっています。これは普段の練習中も一緒に、大きな声を出し、仲間を鼓舞しています。これからの目標は、今春に行われる東北地区の大会での優勝です！



キレのある動きで
観客たちを魅了！



先輩・後輩の垣根を越えて
みんな仲良し！



部長
渡邊 彩花さん
(英文学科2年)

1300「いいね！」突破！

大学公式 facebook に「いいね！」しよう！！



宮城学院女子大学に関する情報が
いっぱいの公式 facebook。おかげ
さまで、1300「いいね！」を突破しま
した！未登録の方は、ぜひアクセスし
て「いいね！」してくださいね！



www.facebook.com/mgu.ac.jp

あとがき

「あなたのあらゆる言動をほめる人は、信頼するに値しない。まがいを指摘してくれる人こそ、信頼できる」古代ギリシアの哲学者・ソクラテスの言葉です。この春、学び舎を後にする卒業生は、4年間でどれだけそういう人たちに会えたでしょう。大学は「学びの場」であると同時に、生涯の師や友との「出会いの場」でもあります。学びを深め、絆を深めた4年間。ここで得たものすべてが、みなさんの一生の宝物となりますように。